

【資料1】

令和8年度住之江区運営方針(案) について

令和7年度住之江区区政会議
第3回 全体会

目次

・令和8年度 住之江区運営方針(案)

└ 区の目標、区の使命、区運営の基本的な考え方	P1
└ 【経営課題1】 課題設定の根拠となる現状・データ	P2～3
└└ 【めざす成果及び戦略1-1】課題認識、主な戦略、評価指標	P4
└└└ 【具体的取組1-1-1・1-1-2】今年度の方向性、取組内容	P5～6
└└ 【めざす成果及び戦略1-2】課題認識、主な戦略、評価指標	P7
└└└ 【具体的取組1-2-1・1-2-2】今年度の方向性、取組内容	P8～9
└ 【経営課題2】 課題設定の根拠となる現状・データ	P10～11
└└ 【めざす成果及び戦略2-1】課題認識、主な戦略、評価指標	P12
└└└ 【具体的取組2-1-1・2-1-2】今年度の方向性、取組内容	P13～14
└└ 【めざす成果及び戦略2-2】課題認識、主な戦略、評価指標	P15
└└└ 【具体的取組2-2-1・2-2-2】今年度の方向性、取組内容	P16～17
└ 【経営課題3】 課題設定の根拠となる現状・データ	P18～19
└└ 【めざす成果及び戦略3-1】課題認識、主な戦略、評価指標	P20
└└└ 【具体的取組3-1-1・3-1-2】今年度の方向性、取組内容	P21～22
└└ 【めざす成果及び戦略3-2】課題認識、主な戦略、評価指標	P23
└└└ 【具体的取組3-2-1・3-2-2】今年度の方向性、取組内容	P24～25
・付属資料	P26～31

令和8年度住之江区運営方針(案)

区の目標(何をめざすのか)

子どもから高齢者まで、住之江区で暮らし、学び、働くすべての人が、自分の将来に夢と希望を持って、地域への愛着や誇りを持ちながら、充実した日常生活を営むことができる「心から誇りに思えるまち、住之江区」をめざす。

区の使命(どのような役割を担うのか)

- ・区役所機能の強化～区民に寄り添う区役所をめざします～
 - 区民の視点に立った区役所サービスの提供
 - まちづくりの支援拠点としての機能の強化
- ・官民連携・情報発信の強化～活力ある地域社会を実現します～
 - 官民連携の強化による地域課題の解決
 - 区政情報・区の魅力の効果的な発信

令和8年度 区運営の基本的な考え方(区長の方針)

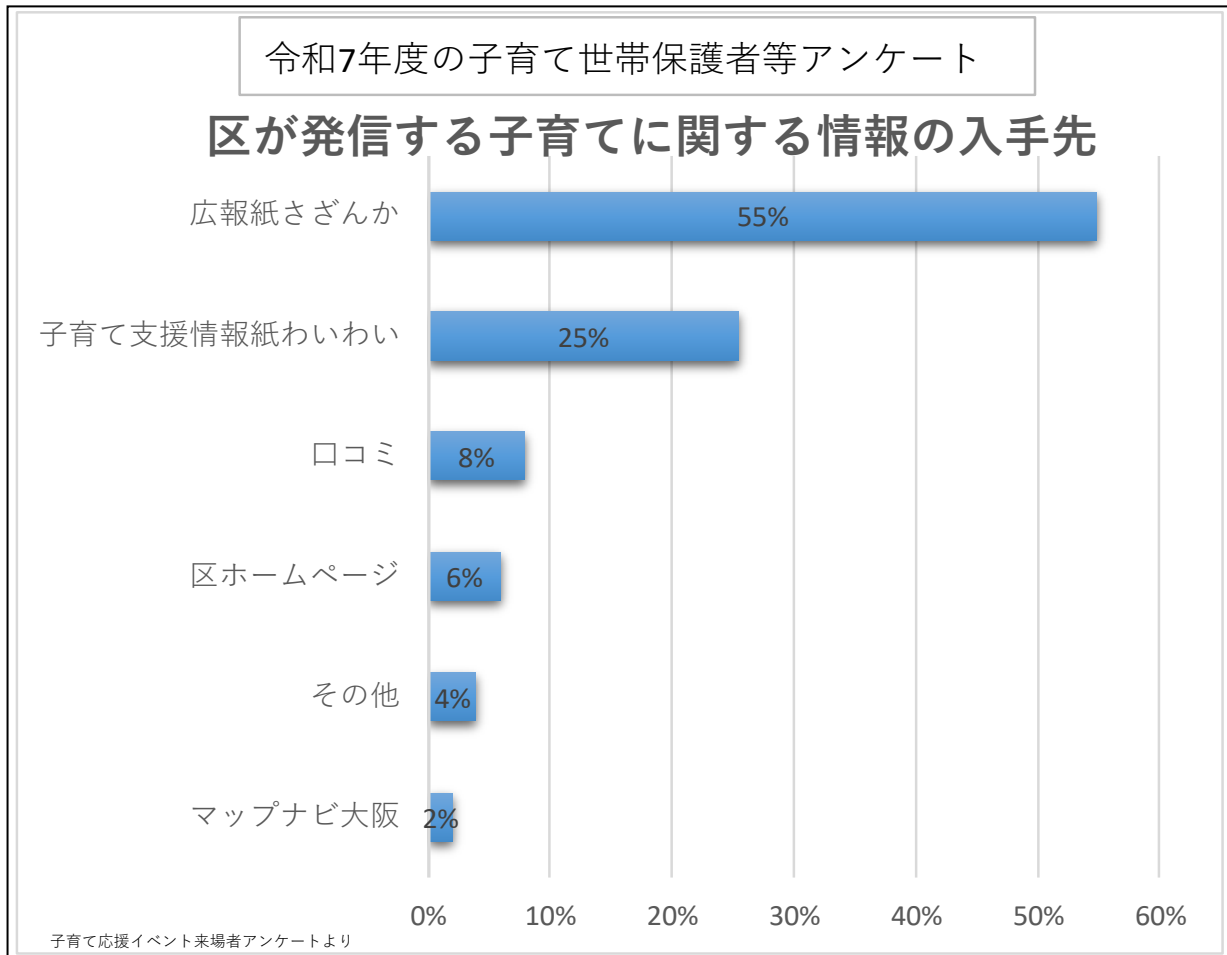
- ・子どもたちの未来のために、「安心して子育てができ、子どもたちが笑顔で育つまち」「子どもたちがいきいきと学び、成長していくまち」をめざします。
- ・すべての人がいきいきと自分らしく暮らせるために、「支え合い安心して暮らせるまち」「活力と魅力のあふれるまち」をめざします。
- ・安全・安心に暮らすために、「災害に強いまち」「防犯意識の高いまち」をめざします。

【1-1 安心して子育てができ、子どもたちが笑顔で育つまち】

・全市において、要保護児童対策地域協議会及びこどもサポートネットの取組を推進しており、関係機関との連携・見守りなどにより、重大虐待ゼロに向けた取り組みを継続中であるが、当区においてはネグレクト家庭が多くを占め、支援を拒否する家庭もある。

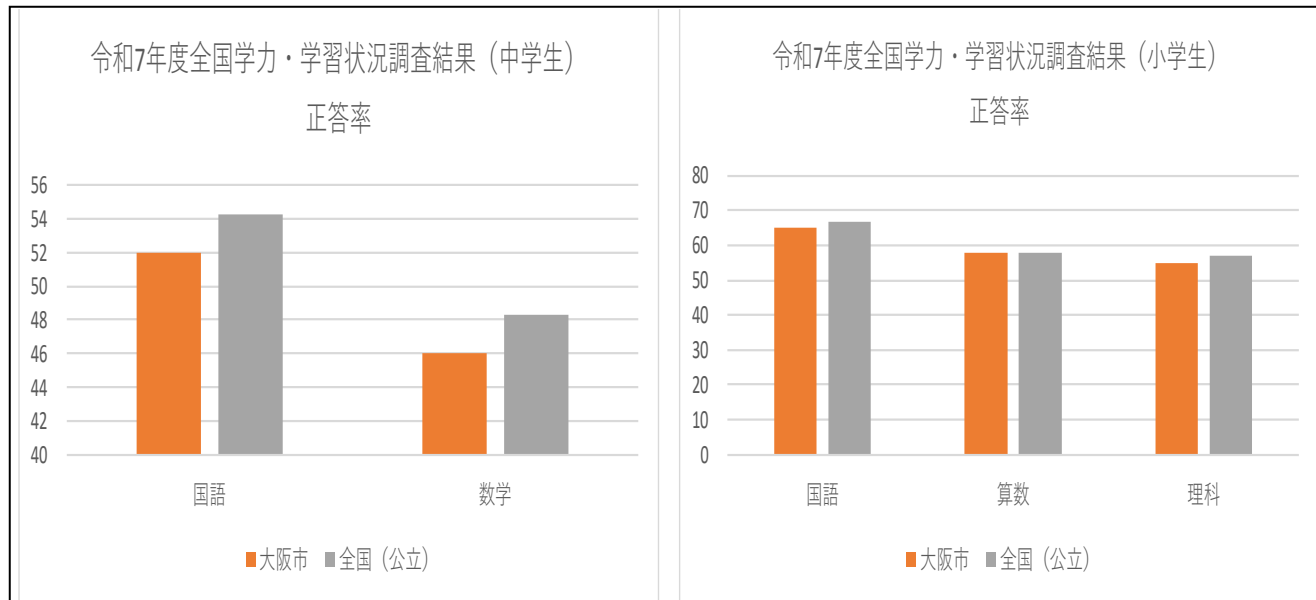
・就学前の子どもを対象とした乳幼児健診受診率は、様々な施策を講じることにより90%を超えているが、未受診の方の把握に努めている。特に、乳幼児等の健全な発育・発達や養育環境のリスクが高まらないよう、地域担当の保健師からの働きかけや子育て支援室等との連携により、すべての子育て世帯が安心して気軽に相談できるよう切れ目のない見守りを行っている。

・令和7年度の子育て世帯保護者等アンケートにおいて、区が発信する子育てに関する情報の入手先は広報紙「さざんか」、子育て支援情報紙「わいわい」が上位を占めた。

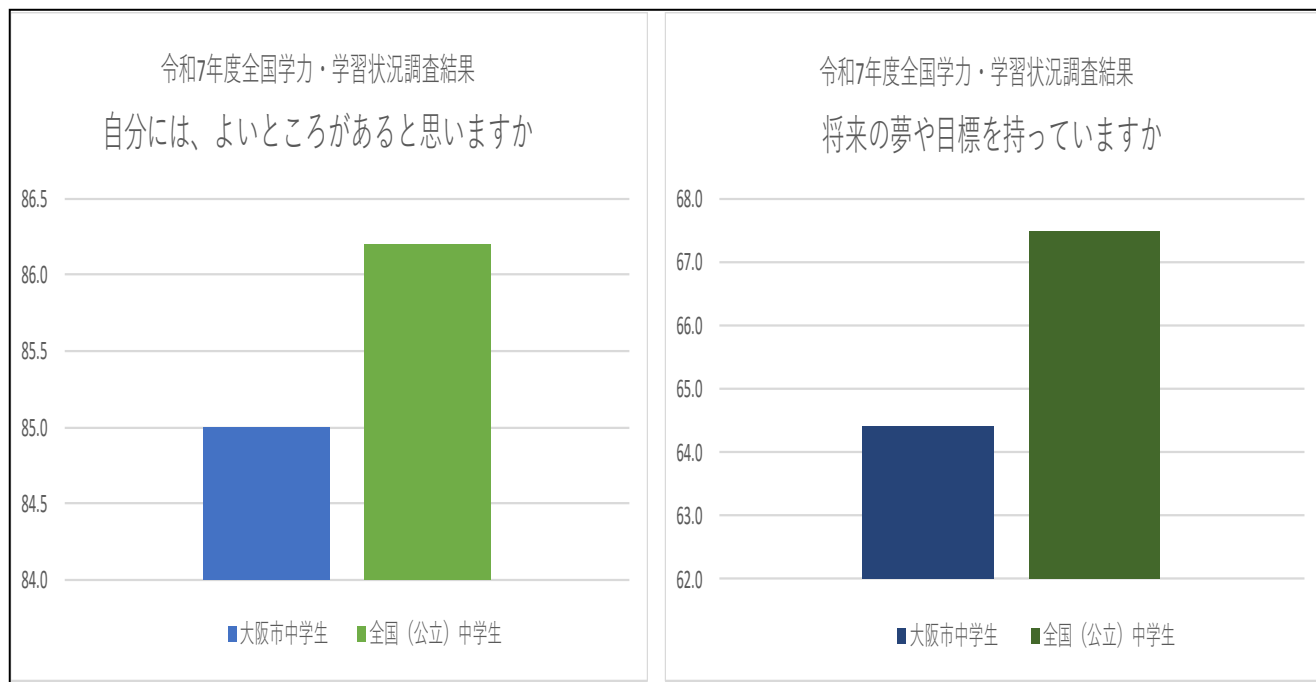


【1-2 子どもがいきいきと学び、成長していくまち】

・全国学力・学習状況調査における本市小学生ならびに中学生の平均正答率はすべての科目において、国平均を下回っており、区においても同様の傾向がある。また、本市の小学生及び中学生は国に比べて授業以外の学習時間が少ない傾向があり、区においても同様の傾向がある。近年その傾向は変わらない。



・全国学力・学習状況調査における「自分には、よいところがあると思いますか」「将来の夢や目標を持っていますか」という質問における区内小学生ならびに中学生の肯定的な回答についても、いずれも本市の小学生・中学生は国平均を下回っており、区においても同様の傾向があり、近年その傾向は変わらない。



経営課題1 子どもたちの未来のために



●めざす成果及び戦略

6決算額	904 千円	7予算額	3,122 千円	8予算額	3,211 千円
------	--------	------	----------	------	----------

1-1 安心して子育てができ、子どもたちが笑顔で育つまち

【めざす状態】

未来の担い手であるすべての子どもが、家庭や地域で愛されながら、個性豊かに、たくましく育っていくよう、区民がより安心して子育てができ、子どもたちが夢と希望を持って学ぶことのできる環境の実現をめざす。

課題認識

- ✓本人や家庭への支援が必要な児童・生徒に対し、こどもサポートネット事業の充実など、社会全体で支える仕組みを強化するとともに、周囲の目が行き届きにくい就学前の子育て世帯に対しては、切れ目のない相談やサポートが可能となるよう、見守り環境の整備を進める必要がある。
- ✓子育てに関する様々な支援や相談窓口、交流の場の機能充実を図るとともに、これらに関する情報が、直接子育て世帯に分かりやすく効果的に伝わるよう、関係機関との連携やSNS等の活用など、情報にアクセスしやすい方法を検討する必要がある。

主な戦略

- ✓妊娠・出産期、乳幼児期、学齢期、青少年期の各ステージに応じて切れ目なく子育てをサポートするとともに、課題を抱える家庭や子どもへの支援などを行う。
- ✓子育ての悩みをみんなで相談しあったり、子育てに関する有益な情報が確実に簡単に入手できる環境の整備を進める。

評価指標と達成状況

✓令和11年度末までに、区役所がSNS、広報紙等で子育てに関する情報発信を行う回数

令和5年度(実績)	令和6年度(実績)	令和7年度(見込)	目標値
96回	114回	114回	年間100回以上

✓年間を通じて重大虐待事案が発生しない状態の継続

令和5年度(実績)	令和6年度(実績)	令和7年度(見込)	目標値
0件	0件	0件	0件

●具体的取組

1-1-1 支援が必要な児童、生徒への取組

今年度の方向性

✓学校等関係機関との連携により、支援を要する児童等がとりこぼされることのないよう発見に努め、児童や保護者のニーズを把握し、NPO法人等の関係機関との連携を図る。

取組内容

✓学校等と連携し、支援の必要な児童を発見するとともに、児童や保護者の状況や悩みを傾聴し、地域による子ども支援の取組や、児童支援に取り組むNPOなど民間の取組を含めた利用可能な支援を提案し、児童や保護者のニーズに合わせて利用に向けたサポートを行う。

成果指標	目標	中間実績	最終実績
こどもサポートネットにおいて区役所がアウトリーチできたケースのうち、支援につながった割合	80%以上		

● 具体的取組

1-1-2 全就学前児童への切れ目のない見守り環境の整備

今年度の方向性

✓子育て情報をホームページやSNSを通じて、引き続き継続的に発信するとともに、子育てに関する困りごとや悩みについて、気軽に相談できるよう子育て応援イベントなどの多様な機会を捉え、子育て世帯に情報が届くよう効果的に情報を発信する。

取組内容

✓乳幼児健診や、地域担当保健師・子育て支援室等による相談対応、保育所(園)・幼稚園等との連携、4歳児を対象とした訪問等を通じて、妊娠期から就学に至るまでの間、切れ目なく子どもの状況を把握するとともに必要な支援を行う。

✓特に2歳児を養育する保護者にハガキを送付し、子育てに関する困りごとで相談・連絡があった保護者に対して家庭訪問を行うなど、個々に応じた必要な支援につなげる。また、「手続きケアプラン」を母子健康手帳交付時に配布し、妊娠期から就学前までに最低限必要な手続きや相談先の情報を時系列にわかるように支援を行う。

✓子ども・子育てプラザをはじめ区内の子育てに関わる各種機関と連携し、子育てマップ(年1回)や子育て情報紙「わいわい」(年12回)を発行するとともに、子育て層がアクセスしやすいよう、HPやSNS、デジタルマップなどICTを用いて、子育てに関する有益かつタイムリーな情報発信を推進する。

✓区役所子育て支援室において、保育士・保健師・家庭児童相談員による子育て相談を継続する。

✓全ての妊産婦、子育て世帯、こどもに対し、母子保健・児童福祉の両機能が連携して、切れ目のない一体的な相談支援を行うことを目的として、令和6年4月に設置された「こども家庭センター」を円滑に運営する。

成果指標	目標	中間実績	最終実績
子育て世帯保護者アンケートで「子育ての相談先を知っている」と回答する割合	80%以上		

経営課題1 子どもたちの未来のために



●めざす成果及び戦略

6決算額	4,199 千円	7予算額	5,992 千円	8予算額	7,875 千円
------	----------	------	----------	------	----------

1-2 子どもたちがいきいきと学び、成長していくまち

【めざす状態】

未来の担い手であるすべての子どもが、家庭や地域で愛されながら、個性豊かに、たくましく育っていくよう、区民がより安心して子育てができ、子どもたちが夢と希望を持って学ぶことのできる環境の実現をめざす。

課題認識

- ✓放課後等を活用した学習の場の提供や学習意欲の向上、学習習慣を身に付けるための支援など、児童・生徒の学力向上に向けた取組を充実する必要がある。
- ✓子どもたちが自分で未来を切り拓いていけるよう、将来に向かって自ら挑戦する精神や課題を解決する力を身につけたり、学習目的を見つけたりすることができる機会を提供していく必要がある。

主な戦略

- ✓地域や民間との連携のもと、誰もが安心して勉強ができる環境の充実を図り、学習を楽しむ体験をすることで、学習意欲が向上するよう促す。
- ✓知識だけでなく、学ぶ意欲や、課題を見つけ解決していく力を養い、将来の夢や目標に向かってチャレンジする気持ちとやり抜く力を育む。

評価指標と達成状況

- ✓令和11年度末までに、全国学力・学習状況調査等のアンケート結果で区内中学生への「将来の夢や目標」に関する質問に対する肯定的な回答の割合

令和5年度(実績)	令和6年度(実績)	令和7年度(実績)	目標値
64.50%	60.20%	60.20%	70%以上

● 具体的取組

1-2-1 児童、生徒の学力向上に向けた取組

今年度の方向性

✓参加者数の増加につながるような効果的な周知方法等を検討し、学校及び事業者との連携強化に努める。

取組内容

✓放課後の学校施設を利用し、大阪市習い事・塾代助成事業を活用した民間の塾事業者との連携による課外授業(基礎学力アップ事業)を週2回程度行う。加賀屋塾(加賀屋中学校)、南港塾(南港南中学校)、真住塾(真住中学校)、住一塾(住吉第一中学校)、安立塾(安立小学校)、学びひろば住吉川(住吉川小学校)、住之江塾(住之江小学校)、ひら子塾(平林小学校)、新北島塾(新北島小学校)、みなみ塾(南港みなみ小学校)等において実施する。

✓支援を必要とする児童に、学校やスクールソーシャルワーカー、福祉関係者等と連携し、それぞれの理解度や特性に合わせた少人数体制での学習支援(放課後学習チャレンジ教室事業)を小学校施設で行う。

成果指標	目標	中間実績	最終実績
基礎学力アップ事業および放課後学習チャレンジ教室事業の対象児童・生徒に対するアンケート調査において、「この事業に参加してよかった」という問いに対し、肯定的な回答の割合	70%以上		

● 具体的取組

1-2-2 チャレンジ精神や課題解決力を身につけたり、学習の目的を見つけたりする機会づくり

今年度の方向性

✓チャレンジ精神や課題解決力を身につけたり、学習の目的を見つけたりする機会づくりを学校の授業の一環としても実施できないか、学校や事業者など関係先との連携を図りながら検討していく。

取組内容

✓キャリア教育の一環として、小中学生を対象に、プログラミング的思考(論理的思考力)を育むことで思考力・課題解決力・判断力・表現力等の資質・能力の育成をめざすプログラミング教育を題材とした体験学習を開催する。

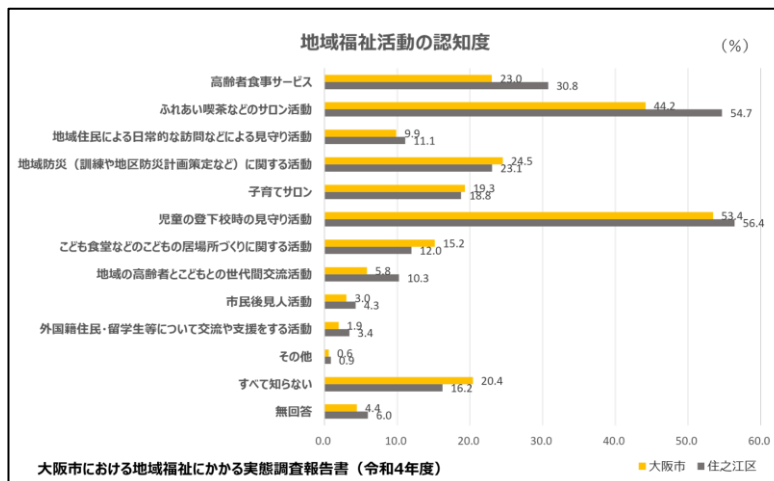
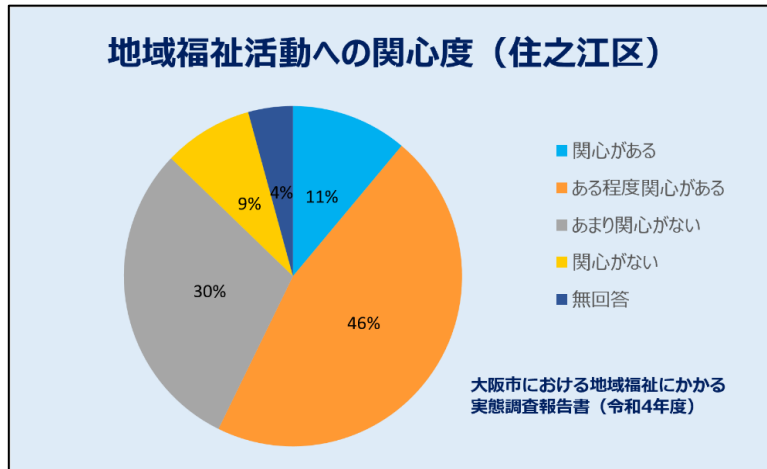
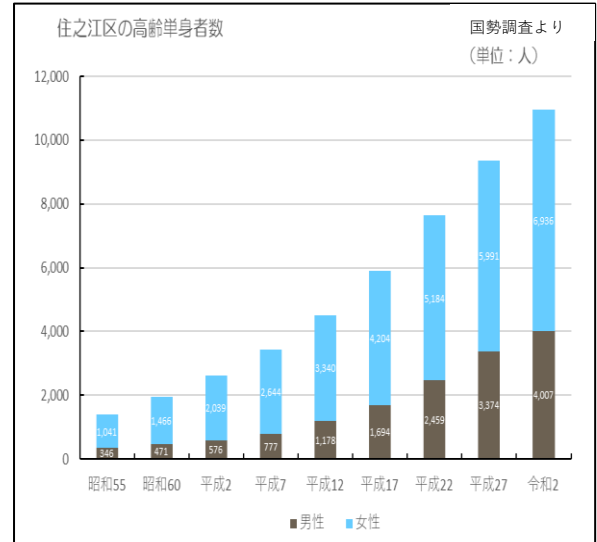
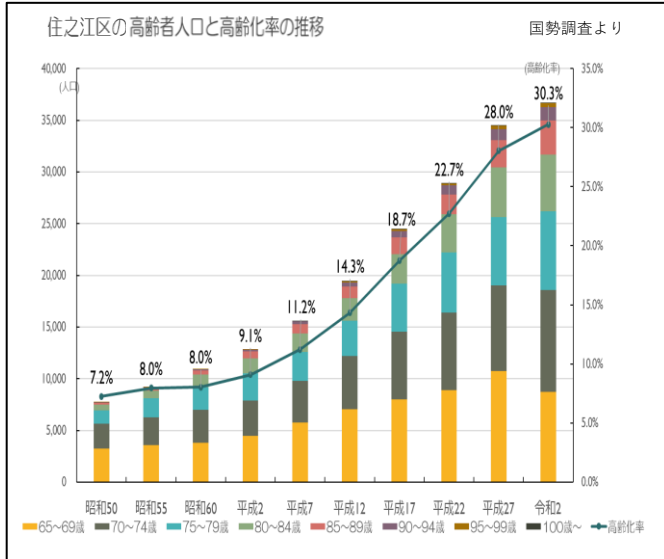
✓将来の夢や目標に向かってチャレンジする気持ちを育み、子どもたちがこれからの社会を「生き抜く力」を身につける機会を創出する。

✓楽しく遊び感覚で運動に取り組むことで幼少期から運動習慣を身に着ける機会を提供する。

成果指標	目標	中間実績	最終実績
体験学習に参加する児童・生徒対象のアンケートにおいて、プログラミングへの関心や体験学習の理解度について肯定的な回答の割合	70%以上		

【2-1 支え合い安心して暮らせるまち】

- ・高齢者が年々増加し、高齢者の半数以上が後期高齢者となっており、一人暮らし高齢者も増加している。
- ・地域福祉活動に関心があっても、参加したことがある人は少ない。



【2-2 活力と魅力のあふれるまち】

・地域活動協議会の自律度及び、まちづくりセンター等の地域の実情やニーズに即した支援の実施については、おおむね90%程度で推移している。

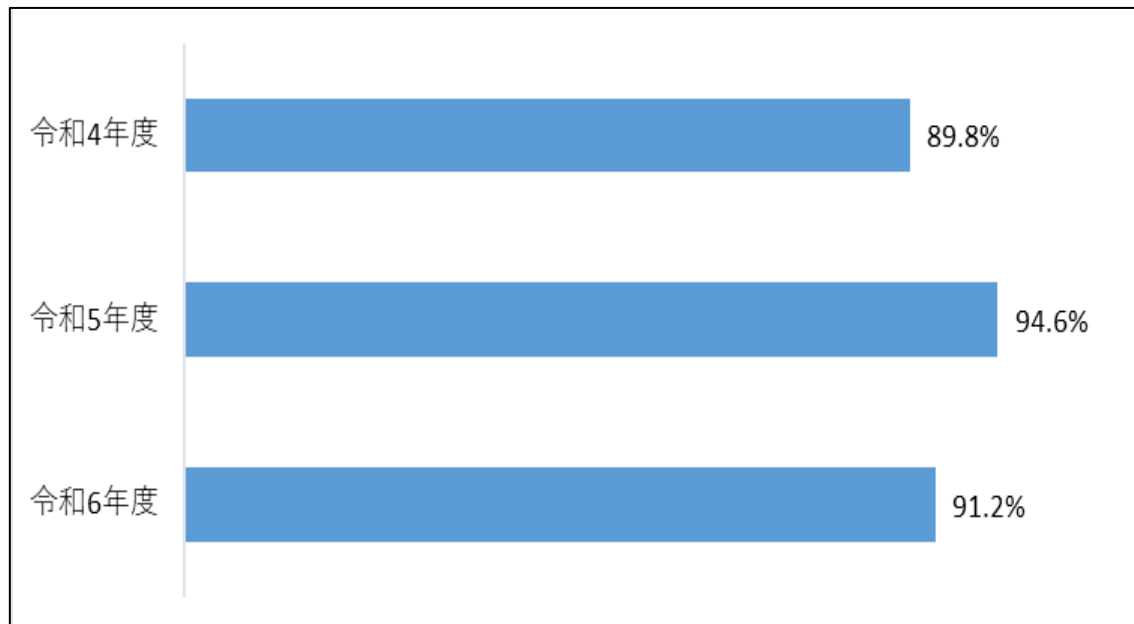
地域活動協議会の構成団体アンケート

「地域活動協議会が、地域特性に即した地域課題の解決に向けた取組が自律的に進められている状態にある」と回答した割合



地域活動協議会の構成団体アンケート

「地域活動協議会に対して、まちづくりセンター等は、地域の実情やニーズに即した支援を実施している」と回答した割合



経営課題2 すべての人がいきいきと自分らしく暮らせるために



●めざす成果及び戦略

6決算額	12,550 千円	7予算額	12,619 千円	8予算額	12,883 千円
------	-----------	------	-----------	------	-----------

2-1 支え合い安心して暮らせるまち

【めざす状態】

地域の人々や様々な機関が、それぞれの立場でできることを行い、できないところはお互いに連携し取り組んでいくことで、すべての人々が温かく見守られたり、必要な支援を受けながら、住み慣れた地域に愛着を持ち、自分らしい暮らしを安心して送ることができるまちをめざす。

課題認識

- ✓福祉関連施策をより着実に推進するとともに、多様化・高度化する社会環境に柔軟に対応できるよう、関係機関との相互連携を一層強化するなど、支援を必要とする人に寄り添い支える地域づくりを一層進める必要がある。
- ✓地域福祉ビジョンや広報紙などによる啓発や、地域での見守りの担い手である「見守りあったかネットサポーター」の養成、区社会福祉協議会との連携などによる地域福祉の一層の充実を図る必要がある。

主な戦略

- ✓地域ですこやかな生活が送れるよう、福祉・健康・医療・介護・暮らしの支援などの制度のもと、福祉サービスを総合的に提供するとともに、包括的な支援の仕組みを構築し、地域において誰もが支え合い、いきいきと豊かに尊厳をもって暮らすことができるよう取り組む。
- ✓誰もが自分らしく安心して生活できる環境を実現するためには、地域内で住民同士が互いに支え合い、それぞれが自分らしく活動できるコミュニティづくりが重要である。身近に住む住民の皆さんが、お互いを気にかけて、見守ることで相手の変化に気づくことができる。住之江区では、各地域が高齢者、障がい者、子どもなどを見守る活動を行っており、変化に気づいた人が自ら助けることができない場合や解決が難しい場合であっても、地域で見守り、適切な支援につなぐことで支え合うことができる。地域で孤立せず、自分らしい生活を送ることができるような、気にかけて、つながり、支え合う地域づくりを推進していく。

評価指標と達成状況

- ✓令和11年度末までに、地域活動協議会アンケートで、地域の中で見守りやつながりづくりに資する活動ができていると回答する割合

令和5年度(実績)	令和6年度(実績)	令和7年度(見込)	目標値
—	—	— 現時点で アンケート未実施	60%以上

● 具体的取組

2-1-1 安心を提供する福祉施策の推進

今年度の方向性

✓ 安定的に継続した研修等を実施し、区民の困りごとに対して職員の「気づき」や「感度の向上」を図る。

取組内容

✓ 区役所の全ての職員が、区民の困りごとに対してよりの確な支援につなげられるよう、「気づき」や「感度の向上」に関する安定的に継続した研修等を実施し、相談対応力の向上を図る。

✓ 個別の支援にあたっては、関係機関の情報共有・連携のため、関係法令に基づく会議のほか、総合的な支援調整の場(つながる場)及び生活困窮者支援会議(シェア会議)などの積極的な活用を進める。

成果指標	目標	中間実績	最終実績
区役所の全職員に対して実施するアンケートで「区民の相談に対して、適切な支援につなげられるように、課題に「気づく」ことを意識して行動できる。」との質問に対する肯定的な回答の割合	80%		

● 具体的取組

2-1-2 地域福祉の充実

今年度の方向性

✓地域のつながりを活用するなどして、どのようなサポートを必要としているかなどのニーズを明確化し、間口を広げることで、区民の参加促進へと繋げる。

取組内容

✓ちょっとした声掛けや見守りといった地域福祉の取組への参加を促進できるよう、各地域の取組や課題を把握し、啓発を行う。

✓各地域や企業、学校等において、高齢者、障がい者、児童などに対する地域の見守り活動の担い手である「見守りあったかネットサポーター」を養成する。養成においては、「見守りあったかネットサポーター養成講座」により多くの参加を促進するため、時間帯や曜日などを柔軟に開催する。

✓区社会福祉協議会と連携し、要援護者名簿の活用や見守り等、地域福祉活動に関する効果的な取組を各地域と共有するとともに、見守り相談業務などの地域福祉活動におけるICT活用や、見守りあったかネットサポーター養成講座等の研修でのICT活用について、地域、関係機関とともに検討を行う。

成果指標	目標	中間実績	最終実績
地域向け『見守りあったかネットサポーター養成講座』への年間参加者数	300人以上		

経営課題2 すべての人がいきいきと自分らしく暮らせるために



●めざす成果及び戦略

6決算額	62,645 千円	7予算額	62,563 千円	8予算額	61,090 千円
------	-----------	------	-----------	------	-----------

2-2 活力と魅力のあふれるまち

【めざす状態】

地域の人々や様々な機関が、それぞれの立場でできることを行い、できないところはお互いに連携し取り組んでいくことで、すべての人々が温かく見守られたり、必要な支援を受けながら、住み慣れた地域に愛着を持ち、自分らしい暮らしを安心して送ることができるまちをめざす。

課題認識

✓企業・NPO・学校・地域交流会を開催するなどの支援により地域活動協議会の自律度は着実に改善しているものの、引き続き、より幅広い人材、団体など、多様な主体による地域活動の相互連携の一層の活性化を図るとともに、地域の自主財源の確保のためのサポートや、新たな地域活力を創出するためのICT活用など、地域活動協議会の自律的な運営をより一層促進する必要がある。

✓既存の地域イベントだけでなく、更なる地域の魅力の再発見や新たな魅力の創出につながるよう、これまでの紙媒体での広報に加え、SNSなど多様な広報媒体を活用し、地域の魅力の共有と発信が一層進むよう取り組む必要がある。

主な戦略

✓住之江区の各地域では、日ごろから、夏祭りや子育てサロン、ふれあい喫茶、子どもの見守り、近所の清掃など様々な活動が行われている。これらの活動は、日々の暮らしに、にぎわいと安心をもたらすだけでなく、住之江区全体の活力の源ともなっている。こうした地域活動が将来にわたって自律的に行えるよう、地域の特性などそれぞれの地域の実情にあった必要な支援を行うとともに、多様な主体による連携を促し、より発展する環境づくりを進める。

✓地域への愛着や誇りを持ちながら、充実した日常生活を営むことができるまちづくりをめざす。身近な地域にある歴史や文化の魅力を発信し、地域の皆さんが共有することで、地域への愛着はさらに深まり、次の世代へと引き継がれていく。ICTの活用を図りながら、このような機運を高めるための環境や仕組みづくりを進めていく。

評価指標と達成状況

✓令和11年度末までに、地域活動協議会アンケートで、地域活動協議会が、地域特性に即した地域課題の解決に向けた取組が自律的に進められている状態にあると思う割合

令和5年度(実績)	令和6年度(実績)	令和7年度(見込)	目標値
94.60%	91.20%	— 現時点で アンケート未実施	90%以上

● 具体的取組

2-2-1 多様な主体と連携した地域活動協議会による自律的な地域運営の促進

今年度の方向性

✓まちづくりセンターと連携しながら、地域活動協議会の情報発信等に係るスキル向上の支援をし、企業・NPO・学校・地域交流会等の継続的な実施により、地域課題の解決に向けた協働取組が更に活発になるように支援する。

取組内容

- ✓まちづくりセンターと連携し、地域の実情に応じて、地域活動協議会の自律運営に向けた支援を行う。
- ✓地域の内外の人材、資金、地域情報等の地域資源を活用しながら、次世代の担い手確保等の地域課題を解決するために、中間支援組織と連携しながら 企業・NPO・学校・地域交流会等を開催する。
- ✓交流会等でできたつながりをもとに地域課題の解決に向けた協働取組の支援を行う。

成果指標	目標	中間実績	最終実績
地元企業、NPOの人材、資金、地域情報等の地域資源を活用した地域活動の実施	12件以上		
地域活動協議会アンケートで、まちづくりセンター等は、地域の実情やニーズに即した支援を実施していると回答した割合	90%以上		

● 具体的取組

2-2-2 地域の魅力の共有と発信

今年度の方向性

✓地域の情報を共有・発信することで、更なる地域の魅力の再発見や新たな魅力の創出につながるよう、これまでの紙媒体での広報に加え、SNSや情報サイトなど多様な広報媒体を活用し、引き続き地域の情報発信の支援を行っていく。

取組内容

✓まちづくりセンターと連携し、地域広報紙の発行に加え、SNSや情報サイト等を活用した地域活動協議会の情報発信等の取組を支援する。

✓区広報紙等において地域活動協議会の紹介をするなど、地域活動協議会の認知度向上に向けた情報発信を行う。

✓SNSや情報サイト等の閲覧・活用の促進を目的として、スマホの使い方を習得するための支援を行う。

成果指標	目標	中間実績	最終実績
区広報紙や区ホームページ等の広報媒体を用いて、地活協の活動等の情報発信を行った件数	20件以上		

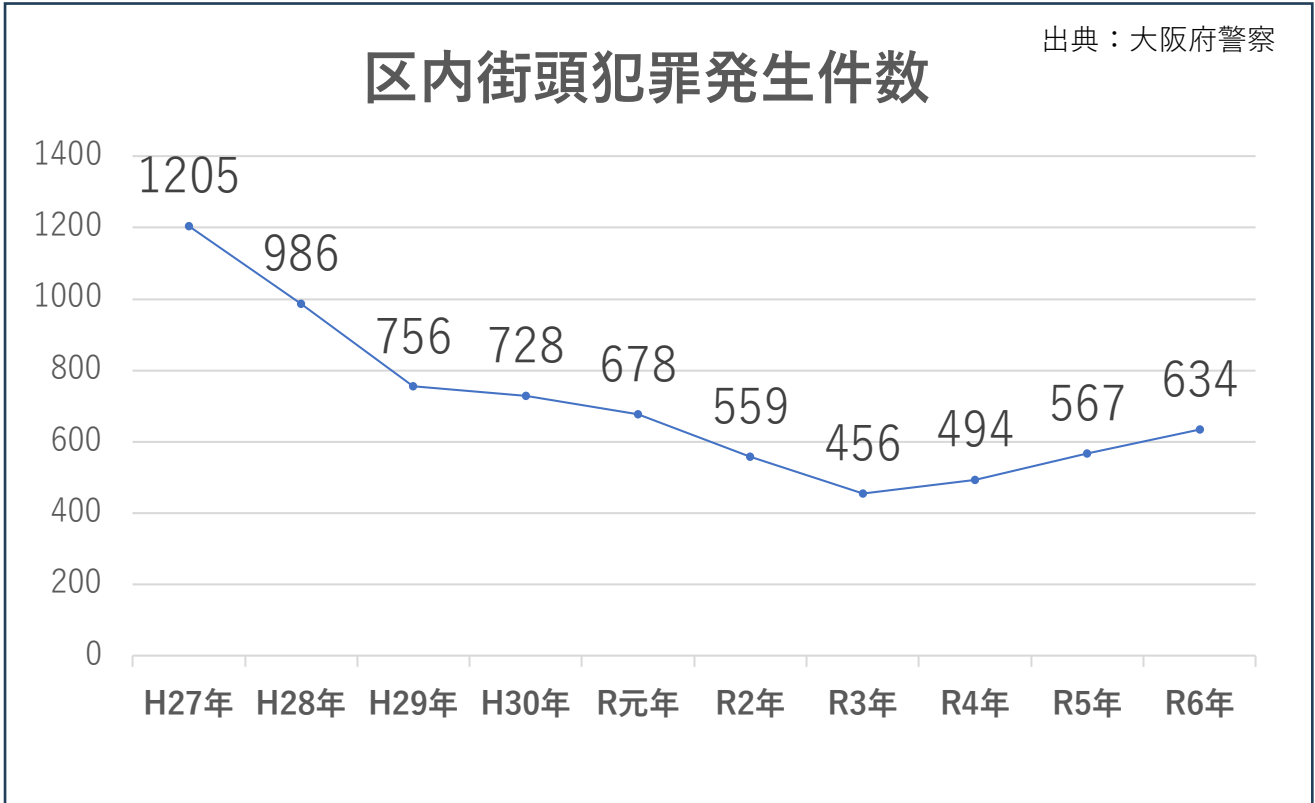
【3-1 災害に強いまち】

- ・住之江区では、大和川の氾濫、高潮及び内水氾濫による浸水、東南海・南海地震及び南海トラフ巨大地震による津波浸水が想定されている。
- ・南海トラフ巨大地震発生後、最短で1時間50分(110分)で1mを超える津波が大阪市に到達すると想定されており、波の高さは最大で5.1mとなっている。
- ・津波による死者・負傷者・重傷者想定数(早期避難率が低い場合)13,376名 (H26年1月大阪府南海トラフ巨大地震災害対策等検討部会より)
- ・各地域においては、概ね年に1回防災訓練を実施しているものの、参加者に偏りが生じている。
- ・令和7年度防災セミナー参加者アンケートにおいて、「お住まいの地域または家庭で災害による備えができています」の間に肯定的な回答をした割合 49%

住之江区の防災に関する取組実績	R6年度 実績	R7.12月末 現在
地域防災訓練実施回数	17回	12回
小中学校防災訓練(講座)実施回数	14回	15回
防災出前講座実施回数	15回	6回
地域防災リーダー登録者数	350名	411名
防災パートナー登録件数	18件	25件
津波避難ビル協定件数	47件	49件

【3-2 防犯意識の高いまち】

・区内の街頭犯罪発生件数は、令和3年までは減少傾向にあったが、令和4年以降は年々増加しており、令和6年は634件であった。



経営課題3 安全・安心に暮らすために



●めざす成果及び戦略

6決算額	10,704 千円	7予算額	14,524 千円	8予算額	14,524 千円
------	-----------	------	-----------	------	-----------

3-1 災害に強いまち

【めざす状態】

大規模地震や津波、水害等の自然災害に対し、自助・近助・共助・公助による備えのできた防災力の高いまちをめざす。

課題認識

- ✓阪神・淡路大震災では自力脱出困難者の大多数は家族・近隣住民に救出された。能登半島地震においても自力脱出が困難な要配慮者への支援が課題であった。こうしたことから「自助」「近助」に対する一層の意識の向上が必要である。
- ✓地域防災訓練や防災出前講座、地域防災リーダー研修等の充実を図り、自助・近助・共助による防災力の向上と多数の人材育成により一層取り組む必要がある。
- ✓避難場所の拡充と避難所での物資の充実、避難所の所在を分かりやすく示す表示板整備など、減災のための環境を一層整備する必要がある。

主な戦略

- ✓災害への知識を深め事前に備えることで、一人ひとりが災害に対応できる、自助・近助・共助による防災力を高める。
- ✓災害時に身の安全が確保できる避難場所の拡充を図るとともに、一人ひとりが避難行動を円滑に行えるよう、環境を整える。

評価指標と達成状況

- ✓令和11年度末までに、防災セミナーへの参加者数の合計

令和5年度(実績)	令和6年度(実績)	令和7年度(実績)	目標値
—	—	111人	延べ500人以上 (年間100人以上)

● 具体的取組

3-1-1 自助・近助・共助による防災力の向上と圧倒的多数の人材育成

今年度の方向性

✓引き続き、出前講座や訓練説明会等の機会を捉えて周知を行う。

取組内容

✓防災意識の向上に向け、町会や自主防災組織をはじめ、学校や民間企業等の幅広いコミュニティ層に対して、研修や出前講座を行う。

✓地域防災力向上に向け、防災アドバイザーを活用した地域防災訓練等の支援、地区防災計画の改訂支援を行う。

✓ハザードマップや避難カードの活用方法について啓発し、自らが作成した後、近所や地域の方へ避難カードやマイタイムラインの作成を促せるような「近助」の防災力が向上する取組を行う。

✓「在宅避難」「分散避難」など、災害の種類や規模、感染症の対策等その時の状況に合わせた避難方法を選択できるよう啓発を行う。

成果指標	目標	中間実績	最終実績
防災訓練の実施回数	14回		

● 具体的取組

3-1-2 減災のための環境整備

今年度の方向性

✓ 企業・NPO・学校・地域交流会の場を活用するなど、協力いただける企業等の拡大に努める。

取組内容

✓ 津波避難ビル等の避難場所や備蓄物資の充実を図るとともに、地域貢献を行う意思を有する企業・事業所、NPO・ボランティア団体等に災害対策に必要な協力を行っていただく「防災パートナー」の増加に向けて啓発し、依頼を行う。

✓ 災害時避難所の表示板等の設置・修繕を行う。

✓ 個別避難計画作成支援や中学校防災授業など、地域と連携した持続可能な仕組みづくりを行う。

成果指標	目標	中間実績	最終実績
防災パートナーの新規登録件数	2件以上		

経営課題3 安全・安心に暮らすために



●めざす成果及び戦略

6決算額	2,291 千円	7予算額	4,989 千円	8予算額	5,312 千円
------	----------	------	----------	------	----------

3-2 防犯意識の高いまち

【めざす状態】

ひったくりや路上強盗、特殊詐欺等、犯罪のない安心して暮らせるまちをめざす。

課題認識

- ✓各種キャンペーンや出前講座などを通じ、増加傾向にある特殊詐欺などの巧妙化する犯罪手口に関する情報の普及や注意喚起など、防犯意識向上に向けた意識啓発を、より一層進める必要がある。
- ✓青色防犯パトロールカーの巡回やキャンペーン活動、防犯カメラの適切な維持など、街頭犯罪防止のための環境整備に引き続き取り組む必要がある。

主な戦略

- ✓還付金詐欺、オレオレ詐欺などの特殊詐欺等の犯罪やひったくり、路上強盗などの街頭犯罪に対する正しい防犯知識の普及と防犯意識の醸成により、犯罪を寄せ付けないまちづくりを進める。
- ✓警察などの関連部署や地域との連携のもと、みんなの目が行き届いた、犯罪が実行されにくい安全・安心なまちをめざす。

評価指標と達成状況

- ✓令和11年度末までに、特殊詐欺の被害防止並びに街頭犯罪の抑止のキャンペーンにより啓発した人数の合計

令和5年度(実績)	令和6年度(実績)	令和7年度(見込)	目標値
—	—	2,400人	延べ12,000人以上 (年間2,400人以上)

● 具体的取組

3-2-1 防犯意識の向上に向けた啓発

今年度の方向性

✓ 様々な世代の区民に知ってもらう機会を充実させる。

取組内容

✓ 特殊詐欺に狙われやすい高齢者への対策として、金融機関や商業施設等を訪れた高齢者に特殊詐欺被害防止の呼びかけと、啓発内容を掲載したチラシ等を配布し、特殊詐欺被害を未然に防止するための取組を行う。

✓ 警察と連携しながら、特殊詐欺被害防止録音機の貸与を行う。

✓ 防犯意識の向上に向け、安まちアプリの情報を元に、防犯出前講座等の機会を捉え、大阪府内で発生した特殊詐欺の手口や住之江区内で発生した犯罪事案の注意喚起を行う。

成果指標	目標	中間実績	最終実績
街頭キャンペーンの実施回数の合計	12回		

● 具体的取組

3-2-2 街頭犯罪抑止のための環境整備

今年度の方向性

✓ 様々な世代の区民に知ってもらう機会を充実させる。

取組内容

✓ 青色防犯パトロールカーなどにより、安まちメールで配信のあった情報をもとに、巡回強化ポイントを設定し、地域の巡回パトロールを実施する。

✓ 区役所や商店街などで、ひったくり防止カバー取付キャンペーンを実施する。

✓ 区役所管理の防犯カメラについて、巡回時の目視点検や業者委託点検により、適正な維持管理を行う。

成果指標	目標	中間実績	最終実績
ひったくり防止カバー取付キャンペーンの実施回数の合計	12回		

【1-2 子どもがいきいきと学び、成長していくまち】

■民間団体や企業との連携による学習支援・学習指導を実施しています

●区内小学5・6年生と中学生を対象とした「基礎学力アップ事業」は事業者と区が協定を締結し、大阪市習い事・塾代助成事業を活用して受講できる塾を区内小学校6か所、中学校4か所で運営しています。

●区内小学生を対象とした「放課後学習チャレンジ教室事業」は、事業者と区や学校が協力し、児童の状況に合せた少人数制の学習支援を行っています。



■キャリア教育

●「キャリア教育」とは、児童生徒一人ひとりのキャリア発達を支援し、それぞれにふさわしいキャリアを形成していくために必要な意欲・態度や能力を育てる教育です。

●住之江区では、子どもたちがこれからの社会を生き抜くために必要なチャレンジ精神、創造性、探究心等を育むための体験を得る機会を創出していきたいと考えています。☒



【2-1 支え合い安心して暮らせるまち】

■職員の「気づき」「感度の向上」に向けた取組

区民の相談に対しの確な支援につなげるよう、区職員に対し区民の相談に対する「気づき」「感度の向上」を図り、区役所内や関係機関との連携を含めて、必要な支援につなげられるよう研修等を実施します。☒



■見守りあったかネットサポーター養成講座

日頃、気になる地域住民の生活に異変を感じたら、関係機関に連絡するという「ゆるやかな見守り活動」から、定期的な安否確認が行えるよう、各地域において日ごろから見守り活動の担い手となるサポーターを養成する講座を実施し、「組織的な見守り活動」が行える地域の体制を構築することを目標とします。

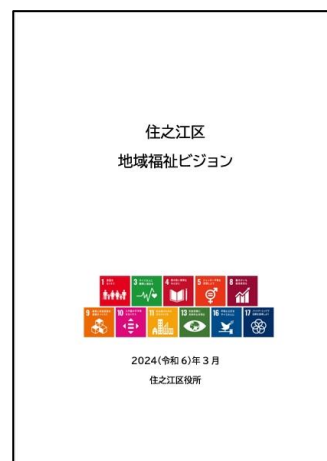


■地域福祉ビジョン

だれもが自分らしく安心して生活していくためには地域福祉を推進していく必要があります。

地域福祉ビジョンは区の実情や特性に応じた取組を進めるために地域福祉の目指す姿を示したものです。

住之江区地域福祉ビジョンは、区全体及び区内14地域の地域福祉に関する課題や取組等について記載しています。



【2-2 活力と魅力のあふれるまち】

■企業・NPO・学校・地域交流会

次世代の担い手確保等の地域の課題解決に向け、まちづくりセンターと連携しながら、地域と企業・NPO・学校等の異なる活動者のつながりづくりとして、企業・NPO・学校・地域交流会を開催しています。



■マルイ食品株式会社からの地域活動に対する卵の提供

マルイ食品株式会社とパートナーシップ協定を結び、フードロス対策として、廃棄が予定されている卵を地域活動協議会が行う地域活動(ふれあい喫茶等)に対して、提供いただく取組(7月から)(安立・敷津浦・住之江・住吉川・平林・海の町)。



■地域活動協議会の認知度向上に向けた情報発信等の取組

区広報紙等において、地域活動協議会の認知度向上を目的として各地域活動協議会の活動紹介を行っています。



SNSでの投稿(X・Facebook)



広報さざんか

【3-1 災害に強いまち】

■中学校での防災人材の育成

中学生やその保護者世代の方々が防災への備えと知識を持ち、ご近所とつながり、災害時に行動できる人材を育成・支援(中学校と地域の連携した防災まち歩きや避難所開設訓練の実施、防災授業)します。

令和7年度実績:区内全7市立中学校で実施



■防災出前講座の開催

地域防災力の向上を目的に、町会や地域団体、企業等を対象に防災出前講座を実施しています。職員がお伺いし、防災について分かりやすく説明します。

令和7年度実績(R7.12月末現在):6回

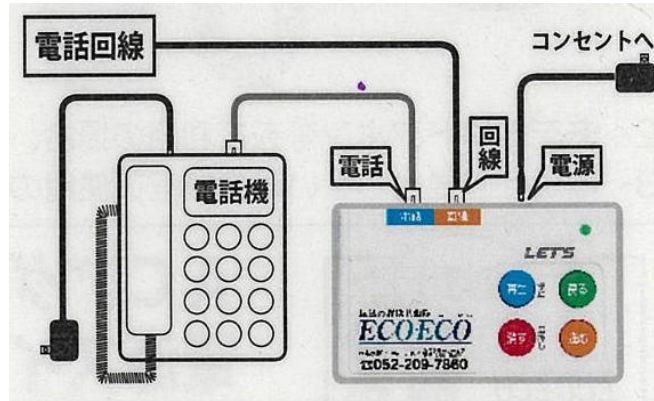


【3-2 防犯意識の高いまち】

■特殊詐欺被害防止のため、「自動通話録音機」を無償貸与

特殊詐欺の犯行手口として最初に用いられる手段は、自宅の固定電話に電話をかけることがほとんどとなっています。通話録音を活用することで、犯人からの電話接触を極力なくすることができることから「自動通話録音機」が特殊詐欺被害防止に有効です。

令和4～7年度貸出件数 住之江区412台 大阪市10,660台(住之江区含む)(令和7年12月末時点)



■防犯啓発

商店街等での、街頭犯罪(特殊詐欺やひったくり等)に関する注意喚起や、ひったくり防止カバー取付キャンペーンの実施など、まちなかで効果的な啓発を実施しています。



■青色防犯パトロールカー

安まちアプリで通知のあった情報をもとに、巡回強化ポイントを設定し、パトロールを実施しています。



防犯マップの表示例